
第 101 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

CI Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai.

日時：2016 年 9 月 10 日（土） 10:30 - 12:30

場所：関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア) 1002 教室

担当者：長瀬由美

テーマ：「GIDE (2015)『スペイン語学習のめやす』を利用して所要時間 20 分の教案を作る 一言語運用を重視しつつ文法項目を教える「20 分教材」(テーマ 8. 余暇と gustar, parecer que) ー」

* Fecha y hora: Sábado, 10 de septiembre de 2016, de 10:30 a 12:30

*Lugar: Universidad Kwansei Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1002

*Encargada: Yumi Nagase

"Elaboración de unidades didácticas de aproximadamente 20 minutos utilizando "*Un modelo de contenidos para un modelo de actuación*"(GIDE 2015): Unidad didáctica que dura 20 minutos que se enfoca en "contenidos" y gramática. Contenido: Tema 8/ Tiempo libre; gramática: gustar, parecer que... ("Un modelo de contenidos": pp.54-55, pp.119-120)"

GIDE (2015) が提案する 12 のテーマのうち、7 :「社会生活」とテーマ 8 :「余暇」とにまたがった協働的なテーマを取り上げ、文法事項と特に言語運用を重視した 20 分教案を作成・提案した。その背景と理念とを含めパワーポイントを使って説明しながら実際に教案通りに参加教員 12 名に活動し体験してもらうワークショップを 45 分で展開し、質疑応答を 15 分で受け付けた。本稿では、パワーポイントの内容とそれに添えた口頭での説明を文書化し、活動の再現をしつつ、まとめを行う。なお、本稿では以後、GIDE (2015)『スペイン語学習のめやす』を単に「めやす」と呼ぶ。

1. テーマ選択の理由

2010 年の GIDE の調査によると、私たちが大学で担当する学生たちは、スペイン語を専攻語や第二外国語として選択した最大の理由に、動機としては「スペイン語圏の人々と意思の伝達出来る可能性」、次いで「スペイン語圏の文化に興味があるから」、使用目的としては「スペイン語圏の国を訪ねたときにその土地の人々と話すため」を挙げたこと、『特に「話したい」という希望』¹を持っていることを念頭に置きたい。

ここで学生らが指しているのは、パターン練習できるような、当たり障りのないフレーズを交わすだけではないだろう。そこから一步踏み込んで、意義と深み、思いやりのある会話をしてみたい、他人のことも理解し、自分のことも理解して欲しいと願う、社会的存在としての人間の「コミュニケーション」への本能的な願望を指していると理解できよう。

これを踏まえ、テーマは 7「社会生活」と 8「余暇」とにまたがり、少し込み入った協働的な交渉までが要求されるものを選んだ。

¹ めやす 87 ページ。

今回の 20 分教案では、「めやす」が明示した「学生が単なる知識の受け手ではなく生涯にわたって自律した学習者になるようにする」²を学習指針の基底に置き、学習目標は「自分の欲求を満たす提案の取引をすることから抜け出て、文化的背景の異なる相手の現状を聴き、その本人の描く今後の方針を理解し、それを尊重しつつ、また自らは個人としての責任を厳格に果たしながら相手に寄り添うような助言（そして行動）が出来るようになる」³とした。これにより、他でもない、「何のために学ぶのか」が「何のために生きるのか」という問いに直結していることを明確に示した。そこから「何のために言語活動をするのか」が明らかになり、これから「どんな言語活動に（何のためにという、その目標が）表現されるのか」が導かれ、最終的に、学習項目つまり「何を学ぶのか」が決定する。

2. 教案の内容

言語レベルについては、DELE の A1 を対象にしているため、言語自体は「具体的かつ簡潔」以上を要求しても達成されないので注意して設定したい⁴。

この教案の言語活動は、日本で日本人大学生とスペイン語圏出身の大学生が交流するという、異文化ギャップがある前提で行う。

この条件の中で教案が①予定・好みについて話し、②計画を提案し、③合意あるいは断りをする事ができる、という段階を踏むのでは、ほぼ従来通りである。

ここからが、本教案の目玉である。まず③が「協調的な」合意・断りになるよう配慮する。そのためには相手の状況と気持ちに配慮した発話・作文をしなければならず、定型通りに自分の言いたい要点だけを言っていたのでは「協調的」にはならない。「めやす」の言う「統語や形態の問題を扱う際に、人が何かを言う時の意図も理解することも教えようとするなら、正しいかどうかだけではなく、適切かどうかにも注意を向けさせていることになる」⁵点を中心に置こうというのだ。Sí か No かの一音節の返事で返答とせず、一往復のやり取りで終わらせず、本教案は、さらに適切かどうかを超えて、力になろうとする気持ちや寄り添う気持ちを表す、正しい言語表現を習得させることを目標にしている。

補足するが、この③には A) 合意したが実現のための話を詰めていると問題が発生（覚）した、あるいは B) 合意したいが、計画実現に向けどちらか、あるいは双方に問題がある、または C) 都合が悪いので断らねばならないが、断ること自体が日本人にとっては大きな問題であるので、なんとか関係がギクシャクしないように相手の気持ちに配慮して断る、という 3 つの展開が想定される。

C) の断る際には、信頼に値する友達であることを証つづけられる、相手の気持ちに寄り添った、断り方を習得する、とし、A) と B) の、実現したいのに問題に阻まれている状況に関しては、この解決を④障害を乗り越えるために、協力し合い、協働することで果たし、問題解決能力の育成にも役立てる、とする。

² めやす 93 ページ。

³ めやす 92 ページの脚注。當作靖彦氏の講演での理解内容をまとめて「参照基準というものは、、、学習項目にとどまらず、学習目標を示していなければならない。つまり、現在のグローバル社会、グローバルなコミュニケーション能力を要求する社会を生き抜いていく人間としての個人の成長を追求するという目標である。」としている。では「グローバルなコミュニケーション能力を要求する社会を生き抜いていく人間」とはどんな資質を持つべきかを考えると、本文の文言となった。

⁴ 例えば、Bueno, a mí me parece que es interesantísimo que vayamos a bailar juntos, ¿eh?では文の長さや接続法現在で難度が B1 まで上がる。これから、接続法も含め 3 語減らした 11 語で¿Qué tal si vamos a bailar a una discoteca este sábado? ぐらいなら、A1 の範囲である。「めやす」のモデル文には、テーマ 8 で 11 語の Bueno, pero a mí me parece que todavía hace mucho frío. と¿Qué te parece si vamos a Kamakura este fin de semana?が挙げられている。これより長いものはテーマ 2 の La primera clase empieza a las nueve y termina a las diez y media.(14 語)と 3 の Sigues todo recto y giras en la primera esquina a la izquierda.(12 語)のみである。多くが 7~9 語、それ以下である。

⁵ P.97.

問題解決能力は今後のグローバル人材に必要な能力なので、交渉しているときに問題が発生した際に、あり得る問題として③のパターンのようにその言語活動を幾つかシュミレーションしておくことで、相手の気持ちに寄り添いながら問題解決も行い、信頼に値する友達であることを証つづける言語活動を遂行できるように準備してやることができる。

そして、言語や価値観の相違という壁を乗り越えて、また意志に反して障害があるときにも、互いの知恵と能力を振り絞り、力を合わせて問題解決に挑む「協働力」は、21世紀のグローバル社会において必須である。協働するためには、まず個人の知識・能力を同時に確立することにも留意しなくてはならない。ところが、能力も知識もあっても、勇気を出して自分の殻を破り、知恵を、時間を、自分を差し出そうとする姿勢と行動というのは、常日頃の意識と努力なしに突然備わる性質のものではない。よって、担当者の、この教授法の理念には、「協働」の遂行に必要な言語能力と同時に、この心的態度と行動をも涵養しようとすることを含む。

これは、次のようなシナリオになる：異文化ギャップのある2人の人間が出会い、質問を投げ掛け合いながら自分を開示し⁶説明し⁷、相手のことを徐々に知り⁸、段階を踏みながら友情が深まっていく、その過程で、信頼が試されるようなちょっとした困難が発生するが、「相手の友情に対する自分の忠実を明示的に示す発話」を挿入することによって、言語に大いに制限がある中で、異文化間の交流が円滑になり、信頼できる友であり続けることができる。

「相手の友情に対する自分の忠実を明示的に示す発話」の挿入を教えるというのが、この教案のもう一つの大事な提案である。スペイン語を母語とする人たちの文化には「話せばわかる」⁹という通念がある。逆に言えば、話さないと分かり合わないのである。これは日本語圏の「空気を読む」文化の真反対なので、学生たちは教えられないと知らないし、勇気もいるので簡単には身につかない。言質に基づいて会話が展開していくのを知らず、日本語での会話のように、空気や表情を読んでもらえる、あからさまに言わないのが良いなどと思っていたりすると、相手の友達になりたいと思っている好意も伝わらず、友情を育む機会を逃すことになる。

具体的には、踊りに行こうかという話になった時に、踊れないと告白する日本人に対して、相手がそれを解決するために手を差し伸べる提案をする。相手が「教えてあげるよ」と言ってくれたのである。ここですかさず、この教案では、「相手の友情に対する自分の忠実を明示的に示す発話」を指導する。

これも会場で話したが、**Yo te ayudo** [私が助けてあげるわよ]などと言って、とても気さくに手助けしてくれる人が多いのが、スペイン語圏であろう。相手の役に立つことを心から喜んでいるのが見て取れるのだ。担当者がスペインやラテンアメリカ滞在中に体験した例を挙げると止まらなくなるほどであり、学生たちも「あれをしてもらった、これもしてもらった」と嬉しそうである。外国生活で不自由が多い日本人の自分に親切をしてくれる人も機会も多い。こんな時に自分もどんどん与えることができた学生は、スペイン語も伸びて帰ってくる。「助けてもらう人」をやめ、現地の文化に溶け込んだ

⁶ 阿吽の呼吸で自分のことが理解されるのを待っていても、生まれ育った文化が違う故に、異文化のギャップがある関係では無言での相互理解は起らない。従って、自分を理解して欲しければ、待っているのではなくて積極的に自分を開示するのだ、ということを異文化交流の経験の少ない日本人学生には知らせる必要がある。よって、この順番は逆にならないのが適切であろう。

⁷ 開示した中で述べた行動を自分がするのは「なぜ」なのかを説明するということが、異文化の人間に理解してもらい、スムーズな交渉を進めるうえで大事な役割を果たすことを説く。交渉において互いの理解を助け合うという意味で、これも協働である。

⁸ 相手のことを知りたければ、まず自らを開示してみせ、信用を得るのが、異文化間の接触の第一歩であろう。従って、自分を開示・説明してから、相手のことを話す・尋ねるという順序は守ったほうが良いことを説明する。

⁹ “Hablando, se entiende la gente.”

からだろう。皆、こうして、より幸せになってほしいではないか。そのためのティップは、Yo te ayudo に並ぶ Yo también quiero ofrecerte algo[私も何かしてあげたいな]というフレーズを、チャンスを見つけたら言うのだという心得とともに、習得させておくことである。この時、相手に対してしてあげられる何かについては機転を利かせて考える訓練もさせておくことより良い。こうして、「一緒に踊りに行く」という目的に向けて協働し、交渉自体までが友情をさらに培うものになり、「信頼のおける友である」という振舞い方が言語活動とともに習得される。「信頼のおける友である」という振舞い方というのは、利害関係の変化に伴って「友になる」のではなくて、人と接するときに徹頭徹尾「友である」ことを意味している。

3. 教案作成と教室内の活動

さて、教案作成の手順は以下である：

GIDE 提案の「めやす」に従い、「何ができるようになるか」、場面設定、語用論に関わる項目、機能・語彙・文法項目を決定し、モデル文を参考に教案・テキストを作成する。

・今回のテーマ：余暇（めやす p.119）または社会生活（めやす p.117）

1) できるようになること：（予定・好みについて話し、計画を提案し、協調的な合意または断りの対話をし、協働して問題解決の言語活動ができる。）

○「めやす」の社会生活・余暇のテーマを学習した後にできるようになること：

1. 好みについて尋ねることができる。
2. 予定について尋ねることができる。
3. 提案することができる。
4. 合意することができる、または理由を述べて断ることができる。

●この教案で学習した後にできるようになること：

5. 理由を述べて「協調的に」断ることができるようになる。
6. 返答を聞いて理解できる。できれば、本教案の理念に沿った適切な反応ができる。
7. 周りとの比較において自分 / 相手を特定して意見を表明 / 質問できる。
8. あることを経験したことがない / あるを告白できる。
9. 相手が 8. に否定的な評価を下して悲しんでいる様子なのを発見したら、慰めることができる。
10. 相手に親切にされたとき、自分も相手に親切にしたい意向がすぐに表明できる。

→達成予定の事項を学習目標と照合してカバーできているか、確認する。（自分の欲求を満たす提案の取引をすることから抜け出て、文化的背景の異なる相手の現状を聴き、その本人の描く今後の方針を理解し、それを尊重しつつ、また自らは自分の責任を厳格に果たしながら相手に寄り添うような助言（そして行動）が出来るようになる）

実際は、教案は上で述べた順に教員が一旦作成して完成しているが、授業の進め方は次のようにして、学生たちに「できるようになること」が実際に内在化するように努める。

~~~「できるようになること」が実際に内在化するための教室活動~~~

ここまで説明してから、自分たちが 1~10 の描写に見合った、どんなことを言うことができるのかを、学生たちにもまず 1) 母語日本語で内省してみてもらい、続いて 2) スペイン語の既習の知識を使って作文してみてもらおう。(これは参加者の教員たちに実際にペアワークでやってみてもらった。)

活動 1) 学習後、出来るようになることの 1~10 を満たす会話をまず、ペアにて口頭で日本語で組み立ててみよう。

☆問題発生、解決策の提案、協働案の提案⇒これら 3 つは必ず含むようにすること。

→教員は A1 レベルに不適切な難度にならないように注意すること！

続いて、学生たちがペアで、目的の決まった作文で既習の知識を絞りあってどのくらい産出できるかをまず見る。

活動 2) スペイン語では、この 1~10 はどう言えるか？活動 1) での日本語によるシミュレーションに基づき、スペイン語で会話を構築してみよう。あり得そうなスペイン語会話をペアで書き出してみよう。

☆問題発生、解決策の提案、協働案の提案⇒これら 3 つは必ず含むようにすること。

→教員は A1 レベルに不適切な難度にならないように注意すること！

こうして学生から出てきた作文に対して、訂正や補足を加えたほうが、教員がすべて与えてしまうよりも創造的で、学生の記憶に残りやすい。ペアで行うことで互いから学ぶ、他の人の色々な考え方を知ることができる、自分たちが作ったものなので覚えやすいなど、教員がすべて教えてしまうより効果的である。文は **authentic** なものになるように教員が責任を持つこと、誤りが化石化しないような訂正の入れ方をすることに留意する。これは、10 人前後の少人数に適したアプローチである。

補足すると、評価のためのルーブリックを作成しておいて、学生に見ながら作業してもらおうようにすると、的外れな回答が、ある程度、枠内に収斂してくるであろう。

学習項目の新出表現例、語用論に関わる項目、機能項目、モデル文など教員が習得させようと予定していた事柄は、ここから順に提示していく。ルーブリックにも、道案内として簡単に含めておくのも良いだろう。学生は、いったん自分たちで頭を捻っているのだから、教員から完成品をただ覚えるようにと与えられるより、定着は早く、正確である。

場面設定：健は日本で半年間、第二外国語としてスペイン語を学び、基本動詞の直説法現在形には問題がない。大学図書館に行こうとしていると、日本語の授業初日の、心細そうなキューバ人フアンと知り合ったので、仲良くなりたくて、どこかへクラスの仲間と出掛けることを提案する。

会話内容：✓フアンに週末の計画について聞いてみる。

- ✓土曜の晩でもサルサバーに出掛けるのはどう思うか、尋ねてみる。
- ✓夜9時ごろ、梅田駅で落ち合うのはどうか、尋ねてみる。
- ✓踊ったことがないこと（問題）を白状すると、ファン自身から習うことを提案される。
- ✓健はレッスンを受けることを承諾する代わりに、自分も自分のできることをファンに教えてあげようと空手を教えることを提案する。

続いて、「めやす」の提案する新たな捉え方<sup>10</sup>に則り、従来の4技能に代わる扱い方で、4技能に対するこの教案の狙いを示す。

対人モード：・予定について話す

- ・計画を提案する・提案に応じる・理由を述べて断る

⇒この教案では対人モードの上記二つを「めやす」から対象にする。「めやす」は次も示している。

- ・簡単な情報を示しながら、計画を提案したり催し物に誘ったりするために、メールや手紙を書く。

解釈モード：・計画についての簡単な情報を聞いて理解する。

- ・会う約束について簡単な情報を聞いて理解する。
- ・催し物のスケジュールや施設の営業時間を読んで理解する。

⇒めやすの示すこれら解釈モードは、この教案では扱わない。

提示モード：若者の余暇の過ごし方について簡単な文章を書く。

⇒めやすの示すこれら提示モードは、この教案では扱わない。

⇒最後に示すように、発展的な学習として、対人モードのメールあるいは手紙で誘いを断る練習を行う。その際、物理的な事情を描写するのみならず、簡単なながらも心理的な事情を伝えるものとする。

## 2) 項目

学習項目の新出表現例：

- 理由を述べて「協調的に」断ることができる。

-**A mí me gusta mucho la idea, pero lamentablemente este sábado me viene mal.** <sup>11</sup>

-Lo siento, es que...no puedo. ¿No crees que es muy tarde? Creo que mi padre me va a buscar.

- 周りとの比較において自分 / 相手を特定して意見を表明/質問できる。

-¿A tí qué te parece si vamos a correr juntos?

-**A mí me parece interesante, ¿eh?**

<sup>10</sup> P.93 本文と脚注 34 を参照のこと。

<sup>11</sup> 13 語であるが、それぞれの部分を見ると容易であり、難しいコンビネーションもない。mente 付きの副詞の導入にも lamentablemente を使える。

- Yo prefiero quedarme en casa.

- あることを経験したことがない / あるを告白できる。

- Oye, Juan, yo no sé nadar. Nunca he nadado. / No he nadado nunca.<sup>12</sup>

- 慰めることができる。

- No te preocupes<sup>13</sup>. Yo te enseño.

- 自分も相手に親切にしたい意向が表明できる。

- ¡Qué bien! ¡Yo también quiero ofrecerte algo! [いいね！僕も何か君に（して）あげたいよ！]

←これは、この教案の鍵となる句である。

語用論に関わる項目：

断りの和らげ表現 ¿No crees que...?

確認や念押しの表現 ¿No?, ¿verdad?, ¿Eh?<sup>14</sup>

威嚇ととられる断言の和らげ表現 Creo que...

提案する際の丁寧表現 ¿Por qué no...?

相手の注意を喚起する表現： Oye,...<sup>15</sup>

機能項目：

提案する、意見を言う、賛成か反対かを表明する、断る、出来るかどうかを表現する・尋ねる、好みについて表現する・尋ねる、慰める、意向を表明する。

文法項目： (Yo creo..., A tí te parece..., A mí me gusta..., 種々の oraciones causales, oraciones interrogativas)

### 3) モデル文：この実践で使う表現

- Normalmente, ¿qué haces los fines de semana? - Bueno, suelo salir con mis amigos.
- ¿A tí te gusta bailar? - A mí, sí, mucho. Y, ¿a tí?  
- Más o menos...<sup>16</sup>

<sup>12</sup> 現在完了形は少し難易度が高くなり A2 になるが、自分の経験を言い、相手に尋ねる機会は多く、知っていると便利である。よって、1 人称と 2 人称ぐらいに特定して導入する。「めやす」のテーマ 4：「旅行」のモデル文にも「教員が初級レベルで先んじる形で教えたほうが良いと判断したときに活用できるように」(p.94) \*付きで 1 人称と無人称表現の 3 人称の現在完了形が挿入されている。

<sup>13</sup> “No pasa nada.” もセットで導入したい。

<sup>14</sup> 間投詞は短くて機能的で使いまわしが効く。できる限り導入したい。

<sup>15</sup> これを言うことで、今から言うことは注意して聞いてほしいのだと相手に伝わる。こう言う状況で親しい人に使うのだと説明するだけで、命令形としての文法的な説明はまだ不要であろう。「めやす」P.98 も同じ見解を示している。

<sup>16</sup> 日本人が使いそうだという指摘があったが、その状況を想定して書いたもので、そのとおりである。友情が深まりそうなキューバ人の同年代の学生と話し始めて、キューバといえば、とダンスについて聞いてみたら、やはり好きらしい。そんな時、日本人大学生はあまり好きではないが言い出せず、「まあまあ」という返事になることはよくあると思われる。逆に、自信があっても言い出さないのが良いとされる日本の文化を考えると違和感はないが、これについては会場から、スペイン語でははっきり言うのだということを指導すべきだとの声が入った。また、スペイン語の más o menos は内容によってはかなり好きであることを意味する時もあるとの指摘もあった。人によっては文字通り「まあまあ」を意味し、後ろに “Depende [場合によるね]” が付いてくるようなこともあるだろう。ここではトーンや言い方を聞き分けなくてはならないということを指導すべきであろう。文化項目としても考えるべきであるが、どこの国の人でも個人の性格というものもある。さらにはあることを言明するのか、しないのかについてなど、文化知識にも指導を入れたい。

- ¿Por qué no vamos a bailar a una discoteca con mis amigos este sábado por la noche?<sup>17</sup> –  
¡Qué buena idea! ¡Estupendo!
- ¿Qué te parece si quedamos en la estación de Umeda a las nueve de la noche? - ¿No crees que va a haber mucha gente?
- -Un poco, sí. Entonces, qué tal en la entrada principal de Kinokuniya? –Vale. Está bien.
- -Oye, Juan, yo no sé bailar.**Nunca he bailado.** -No te preocupes. Yo te enseño. Te enseño a bailar.
- -¡Gracias! ¡Qué bien! **¡Yo también quiero ofrecerte algo!** ¿Quieres practicar karate, ¿verdad?

### ●疑問文⇔答えの練習

「この教案で学習した後にはできるようになること」の「6. 返答を聞いて理解できる。できれば、本教案の理念に沿った適切な反応ができる。」は、見落とされがちであるが、極めて重要であることを指摘した。なぜなら、習った疑問文を發して、返答があった時に、内容が理解できず、正しいリアクションが取れないことがあるからである。これでは、一往復で言われたことを考え込み、沈黙ばかりになる。

これが突破できるようにするためには、以下を反復練習することが望まれる。学習者の中に自動化・内在化されていないと、いざという時に外国語では反応できない。

- **Quién, Cuándo, Cómo, Dónde, Qué, Por qué, Sí-No** の疑問文に答える。
- 一つの疑問文に対して、いくつかのあり得る返答のパターン練習を積む。
- 答えた内容から疑問文を作成する。  
←想像力・瞬発力を付ける、パターンに慣れておく必要がある。

### ○「めやす」に基づく発展案： 解釈・提示モードの教案もやってみよう。

- 解釈モード：
  - 計画についての簡単な情報を聞いて理解する。
  - 会う約束について簡単な情報を聞いて理解する。
  - 催し物のスケジュールや施設の営業時間を読んで理解する。
- 提示モード：
  - 若者の余暇の過ごし方について簡単な文章を書く。

### ●この教案による発展案：内面的な理由で誘いを断る手紙・メールのやり取り

対人モード：メールあるいは手紙で誘いを断る練習を行う。その際、物理的な事情を描写するのみならず、簡単ながらも心理的な事情を伝えるものとする。友達としての断り方なので、断った自分の手紙・メールに対する相手の返答を理解して、その返答に対しての自分の心理的な事情・気持ちを伝えるという、2往復以上を考えさせる。「できるようになること」はやはり「単純な文」、「短い文章」<sup>18</sup>による以下である：

<sup>17</sup> 17 語。それぞれのパーツは容易なので、記憶力と滑舌強化のために試してみたい。1つ2つは、挑戦的なものを含んでも面白いだろう。これをしないと伸びていかない。

<sup>18</sup> 「めやす」 p. 94.



- 理由を述べて「協調的に」断ることができる。
- 自分/相手の意見を取り立てて表明 / 質問できる。(意見を言うことができる)
- あることを経験したことがない / あるを告白できる。
- 慰めることができる。
- 自分も相手に親切にしたい意向が表明できる。

#### ポイント

⇒自分の感情を伝えることなので、強い関心を持ち、一気に学習が進むと想定される。

⇒基本レベルは A1 に置くが、このテーマに関して発信・受信できるようになるために必要なものは、個人の意欲とレベルに応じて、学生が望めばどんどん吸収させることで良いとする。

モデル文などを挙げたいが、紙幅の関係で、またの機会にする。